

【大会イベントアドバイザー報告】

大会イベントアドバイザー 西村 宏久

1. はじめに

2003年11月に日本学生オリエンテーリング選手権実施規則が改定されたことに伴い、様々なことが変わった。コントローラーからイベントアドバイザーと名称が変わり、ロングディスタンス（クラシックディスタンス）が春から秋になり、ミドルディスタンス（ショートディスタンス）が秋から春になった。それにより、秋のロングは他の大会との協力が可能になった。そして、今大会では愛知県オリエンテーリング協会と提携し東日本大会、大高緑地大会と2日間大会の一部として運営された。

2. イベントアドバイザーとしての仕事

イベントアドバイザーとは「日本学生オリエンテーリング選手権実施規則」に従い、インカレが一定の質を保って提供されるために大会全般的にわたって確認作業を行うものである。（「日本学生オリエンテーリング選手権実施規則」第34条参照）

3. 今大会におけるトラブル

運営面では宿泊輸送、エントリーと厳しい内容の仕事を学生が担ったこともあり、いくつかのトラブルが発生した。宿泊輸送面では、業者対応の悪さ（業者側が数回の経験の蓄積により必要以上に人員を削減したため、担当者とのコミュニケーションが十分に取れていなかった、と考えられる）により、数点のトラブルが発生した。実行委員長、副実行委員長（学連幹事長）、宿泊輸送担当者と協議し、インカレで起きたトラブルを整理し、日本旅行へ意見書を提出する予定である。競技面に関しては大きなトラブルがなく円滑に終了することが出来た。愛知県協会の皆さまによる素晴らしい大会の提供によるところが多い。また、東日本のコントローラーの尾上俊雄様には多大な協力を頂いた。ここで感謝の意を述べたい。

4. 学生への提言

これまでのインカレはOBによる実行委員会が立ち上がり、ほぼ全ての業務を実行委員会側で運営してきた。制度改革が行われて初めてのインカレロングである今大会では、競技面の一部と運営面を実行委員会側が、競技面の大部分は愛知県オリエンテーリング協会（東日本大会運営者）が運営を行った。今回はWOC2005のプレイベントの一環として行われたため、地図の精度、運営能力も高いものが提供された。しかし、今後もインカレを他の団体に委託した場合に、これまでと同質の大会が提供されるとは限らない。その格差をなるべく少なくするのもイベントアドバイザーの役割であるが、それにも限界があるだろう。それぞれの目標をもって望んでいる学生には異なる調整方法を求められることになるだろう。また、学生が主に担っていた運営に関しても、宿泊輸送、エントリーと煩雑な作業が存在する。特に、エントリーは煩雑である。各々の参加者がそれを理解し、期日の厳守、極力変更をなくす、といった協力が運営者の負担を減らすことを理解しておいて欲しい。